

＜公演終演直後に収録した4バンドによる振り返りトーク番組も配信決定！＞
「スペースシャワー列伝 JAPAN TOUR 2020 ～仕切直始の宴～」
KOTORI / Suspended 4th / ズーカラデル / ハンブレッターズが名古屋で
悲願の1年越しの再競演！ 苦難を乗り越えた白熱のライブ！

株式会社スペースシャワーネットワーク（本社：東京都港区 代表取締役社長：林吉人）が運営する日本最大の音楽専門チャンネル スペースシャワーTVが「ライブハウスを中心に活躍するインディーズアーティストを、ライブを通してその魅力を全国の視聴者に伝える」というコンセプトの元、2001年より歴史を積み重ねてきた「スペースシャワー列伝」。

昨年はKOTORI、Suspended 4th、ズーカラデル、ハンブレッターズという、それぞれ音楽性が異なるも自分たちが信じる音楽にまっすぐ突き進む4組が集結し、全国9箇所を巡っていく予定だった。しかし新型コロナウイルス感染拡大を受け、ツアー中盤で無念の中止に。

それから約1年。「仕切直始の宴」と題し、リベンジ公演が3月13日の東京公演を皮切りに東名阪ツアーがスタート！初日はSuspended 4thが不在となってしまったが、彼らの分も背負って3組がステージで音を鳴らした。観客の前で音楽を届けられる喜び、再び仲間と再会できる喜びを噛み締めながら、混沌とした世の中でも、それぞれがこの1年間、音楽と向き合い続けた証がそこにはあった。

リベンジ公演と銘打った今回の東名阪ツアーは、大阪府の新型コロナウイルスの感染拡大の状況、それに伴うまん延防止等重点措置の適用による時間短縮要請、そして医療緊急事態宣言の発出などを鑑み、大阪でのファイナル公演は開催中止という決断に至った。しかし、今回4組が揃った最初で最後のツアーは名古屋公演にその全てを、一音、一音に魂が注がれ、決して忘れることができない一夜となった。

コロナ禍で苦い決断も重なる中、音楽シーンも試行錯誤だった1年。再びこの4バンドが揃い、音を鳴らす日をスペースシャワー列伝 JAPAN TOURとして迎えられたことは待っていてくれたオーディエンス、この4バンドが音楽を止めないで列伝を背負ってくれたお陰に尽きる。音楽を届ける使命、素晴らしいに改めて気づかせてくれた今回の列伝ツアーは一層特別なものとなった。

つきましては、ライブレポートと写真素材をお送りいたしますので、ぜひ掲載ご検討のほど何卒よろしく願いたします。

＜イベント開催概要＞

「スペースシャワー列伝 JAPAN TOUR 2020～仕切直始の宴～」

◆出演： KOTORI / Suspended 4th / ズーカラデル / ハンブレッターズ

◆日時・会場

東京 EX THEATER ROPPONGI

2021年3月13日(土)
OPEN 16:00 / START 17:00

名古屋 CLUB QUATTRO

2021年4月13日(火)
OPEN 17:30 / START 18:30

大阪 BIGCAT

2021年4月14日(水)※公演中止

◆主催・企画：スペースシャワー TV

◆「スペースシャワー列伝」公式サイト：

<http://www.spaceshowertv.com/retsuden/>

＼4組が列伝ツアーを振り返るトーク番組が配信決定！／

『スペースシャワー列伝 JAPAN TOUR 2020 ～仕切直始の宴～』

＜配信日＞4月19日(月)20:00 配信予定

＜配信プラットフォーム＞スペースシャワーTV公式LINE LIVE

＜配信URL＞<https://live.line.me/channels/52/upcoming/16518848>

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社スペースシャワーネットワーク メディア本部

TEL:03-3585-3544 FAX:03-3585-3215 担当:関口恭馨(ksekiguchi@spaceshower.net)



Photo by 渡邊一生



スペースシャワー列伝 JAPAN TOUR 2020～仕切直始の宴～ @名古屋CLUB QUATTRO ライブレポート

4月13日に名古屋 CLUB QUATTROにて、KOTORI、Suspended 4th、ズーカラデル、ハンブレッダーズの4組が出演した「スペースシャワー列伝 JAPAN TOUR 2020～仕切直始の宴～」が開催された。「スペシャ列伝」の愛称で親しまれる本イベントは、次世代のロックシーンを牽引するアーティストの登竜門として20年の歴史を誇る。本来は昨年に全国ツアーとして開催されるはずだったが、新型コロナウイルスの影響で中止に。1年越しのリベンジツアーとして東名阪が予定されていたが昨今の状況を考慮して大阪公演が中止となり、名古屋が最終公演となった。そんな紆余曲折を経て開催されたリベンジライブは、4組のバンドの化学反応が起こる熱演が繰り広げられた。

一番手のKOTORIは壮大なサウンド・エスケープを描く「We Are The Future」で幕開けすると、会場の空気を一瞬にして自分たちの音楽に染め上げる。静かな歌いだしから徐々に熱を帯びていく横山(Vo & Gt)の歌声は、ステージに真剣な眼差しを向ける観客の心を鷲掴みにしていた。MCでは「明日の大阪が中止になってしまって一番悔しいのはお客さんとスペシャの方たちだと思うんですけど、でもこうして4バンド揃って1本のライブができる事に価値や意味がすごくある。『また4バンドでツアーやろうよ』と楽屋で話していたので、実現したらいいですよ」と語り、「素晴らしい世界」や「トーキョーナイトダイブ」などの代表曲をプレイして、トップバッターにふさわしいエモーショナルなライブを締めくくった。

続くズーカラデルは、吉田(Vo & Gt)の優しい歌声が耳に残る「漂流劇団」でライブをスタート。ラララという印象的なコーラスのパートになると、バンドと一緒にシンガロングすることができないかわりに観客の手が一斉にあがる美しい景色が生まれていた。ライブ中盤ではミディアムバラードの「スタンドバイミー」や「若者たち」を演奏し、彼らの魅力であるどこか懐かしい哀愁溢れるグッドメロディーが会場に響き渡った。最後のMCでは「列伝ツアーは本当に色んなことがあったけど、会えない時間が愛を育てる的な感じで3バンドのことが大好きになりました。そんなこんなあったのは我々だけではなく、みなさんにもそれぞれのそんなこんながあると思うんですけど、皆さんあってのライブだとこの1年とても感じているので感謝しています」とメッセージを伝え、大きな拍手が沸き起こった。

「皆さんが楽しみにし続けてくれたから、スペシャが諦めずに企画し続けてくれたからこの日を迎えることができました」とムツム口(Vo & Gt)が叫んでライブの口火をきいたのはハンブレッダーズ。爽快なロックナンバー「銀河高速」を演奏した後は、「ソーシャルディスタンスが守られた空間でのライブになるけど、好きなように楽しんでください」とオーディエンスを盛り上げると「弱者の為の騒音を」をプレイ！ベースのでらしは笑顔でステージを所狭しと動きまわって演奏したり、ドラムの木島と向かいあってムツム口がギターをかき鳴らしたりするなど、曲を追うごとにバンドのグルーブがどんどん加速していく。そうした白熱する演奏に感化されるように、会場の熱気が一気にあがっていくのを感じた。ハンブレッダーズは最後の最後まで一切手を緩めることなく攻めのライブをみせてステージを去っていった。

トリを務めたのは地元名古屋のSuspended 4th。約半年ぶりのライブとなる彼らがオープニングに選んだのは、サスフォーの代名詞ともいえるジャムセッション！久しぶりのライブだと思えないほどキレのある演奏をみせてWashiyama(Vo & Gt)、Hiromu(Ba)、Dennis(Dr)がそれぞれ強烈なソロパートで会場を盛り上げていく。ジャムセッションで作上げたグルーブの熱を加速させるように、キラーチューン「ストラトキャスター・シーサイド」へ。観客たちも手を挙げたり体を大きく揺らしたりしながら、サスフォーの演奏を思い思いに楽しんでいった。「僕のせいで東京の列伝をキャンセルしてしまった分まで、今日はカッコいい演奏をします。列伝が今日でファイナルな実感もないまま終わるのは寂しいけど、この4組のバンドも次のステージにそれぞれ行かないといけないんで」とWashiyamaらしい言葉を伝えて、ラストにギターリフとサビのメロディーが鮮烈な「INVERSION」をプレイして大団円を迎えた。

奇しくも仕切り直しの東名阪ツアーで4組が揃ったのは今回の名古屋公演だけであったが、KOTORI・横山の言葉にあったように「4バンド揃って1本のライブをする価値」を思う存分に堪能できる日となった。「スペシャ列伝」は対バンだから感じられるライブの素晴らしさが凝縮されているからこそ、多くの人に愛され続けているイベントなのだろう。

また後日スペースシャワーTV公式LINE LIVEにて、出演した4組のバンドメンバーが全員出演する「スペースシャワー列伝 JAPAN TOUR 2020～仕切直始の宴～THE FINAL TALK SESSION」が配信される。ここでしか聞くことのできないツアーの裏話が盛りだくさんなので、こちらも楽しみに。

(取材・菊池 嘉人／写真・渡邊一生)

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社スペースシャワーネットワーク メディア本部 メディアマーケティング部宣伝・PR課
TEL:03-3585-3544 FAX:03-3585-3215 担当:関口恭馨(ksekiguchi@spaceshower.net)